

# Articulation 訓練時の 視点と実際： 嚥下訓練との相違点

2023

10/22(日)

13:00~15:30

講師

柴本 勇先生  
(聖隷クリストファー大学)

発話時も嚥下時もほぼ同じ器官を用いて遂行されています。活動にあたって「運動すること」という点でも共通です。しかし、それぞれの運動は似ていて異なるものです。発話とりわけ Articulation においては、口腔内圧はそれほど高くなく、運動速度に至る各器官の分離運動を基盤とした巧緻性高い運動が求められます。同時に、各器官での微細な協調運動や子音と母音との連続運動、Vocalization と Articulation との協働した運動、舌尖等の微細運動の実行に向けた頭頸部の安定性が求められます。一方、嚥下時の口腔・咽頭・喉頭器官は、よりダイナミックな運動が特徴です。口腔への取り込み、咀嚼、食塊形成、咽頭への送り込み、咽頭期で発声発語器官の運動を実行します。Articulation 時とは異なり、弱い気流との連動や微細運動よりも器官全体がより時間的に連動して大きな力動を発揮できるかが重要となります。

よく、「食べる練習をしていると Articulation が改善した」という報告がなされます。これは演者もよく経験することです。しかし、Articulation の改善は『以前に比べて』ということであって、『子音や母音の産生が正確な Articulation によって正確な音の産生となった』ということすべてを包含している表現ばかりではないと思われます。したがって、Articulation の改善に向けた訓練は嚥下訓練と切り離して行うことが重要であると思われます。とりわけ、正確な Articulation に向けた訓練は目的や目標を焦点化し実行することが、正確性や目標到達を担保する上で重要と思われます。

本セミナーでは、Articulation の改善という視点に立って、訓練時に焦点化する視点やその実際についてご紹介します。とりわけ、嚥下訓練を行っているだけでは難しい点や嚥下訓練と Articulation 訓練とを区別する点などについて具体的に訓練手技などの実演を交えてご紹介したいと思います。

なお、ASHA では『Speech Sound Disorders』の用語を用いて音声出力後の音声に眼を向けています。本セミナーでは音声出力に至る発声発語器官の運動に焦点を当て、嚥下訓練でできることと難しいことを紹介します。今回は、正確な音声出力に向けた運動訓練という点に焦点化することから『Articulation』という用語を用いています。対象とする方の病態や目標を理解した、嚥下訓練と Articulation 訓練の併用や区別は、言語聴覚士の専門性です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

対象 言語聴覚士 ほか

定員 250 名

申込方法 当研究会ホームページまたは左記の QR コードからお申し込みください。

参加費 当研究会会員：無料 会員外：3,000 円

※会員として参加される場合、10/16(月)までに入会手続きをお済ませください。

申込締切 2023 年 10 月 19 日(木) 定員になり次第締め切ります。

